

# 平成30年度 上津役中だより

梅雨が明けたとたん、待っていたようなこの暑さ、保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。いよいよ今日で1学期が終わり、夏休みを迎えます。この長い夏休みの過ごし方で、2学期からの学校生活が大きく変わります。特に3年生は、2学期後半には中学卒業後の高等学校等の進路選択を迫られてくることになります。この夏休み、目標を持って過ごすことで、規則正しい生活をして、充実した時間にしてください。

## 陰で、美しく学びやすい学校にしてくれている人々に感謝を！

【裏門：溝掘りで水溜まりをなくし、マットを敷いて】 本校の裏門は、雨が激しく降るとタンポポマット



の所が水たまりになります。非常に歩きにくくなるので、校務員の松藤さんはタンポポマットを設置し、さらに溝を掘って水の流れを作ってくれました。すると、雨の日でも水溜まりができず、生徒の皆さんの靴がびしょ塗れにならずに登校できています。全校生徒434名のうち、ほとんどの生徒が登下校で裏門を利用します。

【校舎からプールまで上靴で行き来できるシート】



また、プールに行くために上靴でアスファルトを歩かないために体育館への渡り廊下とプールを結ぶ緑のシートを設置してくれています。5日には、蹴られてトイレの壁が蹴られて穴が開いているのを補修してもらいました。写真ではその様子を知らせています。少しでも美しく費用がかからないように丁寧に作業をしてくれています。

【穴の開いたトイレの壁の補修の工程】

① 《破損した壁》

③ 《修繕したきれいな壁》



② 《修繕途中》

一旦壁を剥がす

さらに、音楽室のひな壇を作ったり、壁が掲示物で汚れないように掲示板を作ったり、理科室のフロアを磨いたり、様々な所で生徒の皆さんが使いやすい、美しい環境を整えてくれています。松藤さんは、先生方から頼まれた仕事を完璧にこなすだけでなく、生徒に役立つと思われる事を進んで行ってくれています。目立たないところで、黙々と働いてくれている人々に感謝したいと思います。感謝の気持ちは、必ず自分に良く返ってきます。

☆ 本校は、市内で最も新しい学校で、施設・設備共に最新の設備が整えられた美しい学校です。大切に使って、いつまでも美しく快適で、使いやすい環境の学校にしておきましょう。

## 生徒会執行部が、八幡西特別支援学校との交流会で学んだこと！

6月22日（金）の午後、生徒会執行部が八幡西特別支援学校（以後、「西特支」と記載する）の生徒との交流会に出かけました。西特支は、肢体不自由・病弱生徒への教育機能をもつ学校です。ほとんどの生徒は車椅子で、自力で立てなかったり、なかなか言葉が出なかったり、様々な障害を持った生徒たちです。中にはベッドに寝たきりの状態の生徒もいました。

【本校生徒が車椅子やベッドを押して、交流を！】



交流会では、体育館で生徒会執行部が自己紹介した後、西特支の生徒も一人ずつ自己紹介してくれました。数名は話すことができますが、それ以外は言葉になりません。一所懸命に声を出しますが、それを付き添いの先生が代わりに紹介します。紹介の後には必ず大きな拍手があるので、温かい雰囲気でした。その後、段ボール紙で作られたボウリングのピンを大きなビニールボールで倒すボウリング大会を行いました。西特支と上津役中の生徒がペアになって、赤と白に分かれて戦いました。西特支のほとんどの生徒は、自分でボールを投げることはできませんが、上津役中の生徒が車椅子を引いたりビニールボールを投げたりして共にプレーしました。1回投げる度に、大きな拍手をもらうので、両校生徒が共に満面の笑みを浮かべて喜びました。温かい心の交流でした。



ボウリング大会の最後に、【車椅子の生徒と本校の式町君と一緒にビニールボールを転がしている様子】

西特支の生徒2人が「僕は、ボウリングで12点もとれて嬉しかったです。」「上津役中との交流も楽しかったです」という発言を聞いて、胸にこみ上げてくるものがありました。



【写真右に、段ボール紙で作ったボウリングのピン】

私は、本校の生徒と交流して西特支の生徒達の笑顔や拍手をする姿を見て、ほのぼのとした幸せを感じずにはいられませんでした。西特支の先生から「寝たきりでベッドに横たわったままの子も、ボウリングのピンが倒れて上津役中の生徒と一緒に拍手をもらったときは、本当に嬉しいんですよ。」「でもここの生徒は、少しずつ身体が良くなる生徒ばかりではなく、ずっと歩けないままの子、だんだん身体が動けなくなって、亡くなってしまふ生徒もいる。それが何より辛いです。」というお話を聞きました。私は、この話を聞いて「西特支の生徒は、今を生きている。人と比べるのではなく、自分なりに必死で頑張っている姿が素晴らしい。」と感激しました。生徒たちも様々な想いがありますので、紹介します。

3年1組 末次 彩

私たちは、当たり前のようにノートを書いたり、歩いたり、ご飯を食べたり、言葉を使ってコミュニケーションを取ったりしています。それに対し、八幡西特別支援学校には、それらのことを当たり前のように行うことが難しい人がいます。

先日、私たち生徒会執行部は、八幡西特別支援学校を訪問し、すごろくやボウリングなどで交流させていただきました。私たちも楽しかったのですが、特別支援学校の人たちは、すごくステキな笑顔で、交流を楽しんでいました。特別支援学校の先生が、「生徒たちはいつも交流の日を楽しみにしていて、交流中は、いつもより元気になる人が多い。」ということをお教えました。私は、特別支援学校の人、体は私たちよりも不自由なところがあるかも知れませんが、楽しんだり笑ったりと私たちと同じだと改めて思いました。

今回の交流を含め、私は計4回、八幡西特別支援学校との交流会に参加させていただきましたが、その中で感じたことがあります。それは、障害をもっていることも、その人の特徴の一つではないかということです。一人一人顔かたちが違うように、また背が高い人やそうでない人がいるように、人それぞれ、もっている特徴も違います。みんなが、お互いの特徴を認め合い、補い合い、共に生きていくことが大切なのではないかと思いました。

八幡西特別支援学校との交流で、たくさんのお話を学び、感じることができました。私にとって、とても良い経験になったと思います。

2年3組 小泉 涼夏

私は、生徒会に入って2回目の八幡西特別支援学校との交流でした。最初は、少し戸惑いがありました。でも障害があっても同じ中学生と遊ぶのは、楽しかったです。私は、小学生の時も1人とは交流したけど、大人数と交流するのは初めてでした。だから、交流することで今まで知らなかったことなど、いろいろ学ぶことができました。例えば、いろんな障害があってもそれぞれの大変な苦労、障害があっても私たちと同じ考えを持っていることなどです。私は、支援学校の生徒とお話しして笑い合ったことが、とても心に残りました。

私は、また支援学校の生徒と交流することが楽しみです。八幡西特別支援学校との交流は、良いことだと思うので、これからも続けて欲しいです。

## ペットボトルキャップで、感謝状を頂きました！

世界には、貧困のために伝染病を患い、亡くなっていく子供達がたくさんいます。全校生徒の皆さんが持ってきてくれたペットボトルキャップで、伝染病にかかりにくくするためのワクチンを提供することができました。ボランティア部が中心となり集めてくれました。また、地域の方々にも市民センターなどで回収して頂きました。本当にありがとうございました。これからもできるだけ多く集めて、一人でも多くの子供達を救いましょう。ご協力をお願いします。



## 家庭教育学級で、生きる活力をもらいました。

6月29日本校図書館で、PTA文教委員会主催の家庭教育学級の開級式が行われました。文教委員長の熊谷様はじめ文教委員、PTA役員の方々のご尽力に感謝しております。ありがとうございました。

さて、その中で、今年5月に2年生の生徒がキャリア教育の最後に、お話を聞いた落水洋介さんの講演がありました。2年生が聞いたお話は、約15分程度だったのですが、今回は約1時間かけて講演していただきました。ユーモアを交えながら、生きる喜びや人の生き方・考え方について、考えさせられる素晴らしい講演でした。落水氏のプロフィール、講演内容のポイント、保護者の感想を紹介します。

○ プロフィール (学校通信の先月号に掲載)

落水氏は、PLS (原発性側索硬化症) という 100 万人に1人の難病にかかりました。「身体に命令を伝える神経が少しずつ壊れ、足や手や口が動かなくなっていき、寝たきりになる病気です。落水さんの

夢は、病気になって大変な人たちにも前向きに生きてもらいたい。自分が寝たきりになっても、仕事を作り出し自由に楽しく生きることです。」とインターネットのブログに書かれています。

○ 講演内容

◇ 「僕は今、人生で一番幸せです。」

些細なことに、当たり前な日常に『有り難い』と思えたら、幸せな気持ちになる。(健康な身体を)失って初めて、あったことに感謝できた。『ありがとう』という気持ちがどんどん湧いてきた。『お天道様が上がってきてくれて、ありがとう』『私のために、花が咲いてくれてありがとう』

◇ 「最悪の未来を一生懸命イメージしていた」

黒を見ようとしていると、他が見えない。人間の脳は、自分の見ようと思ったものが見えてしまう。昔は、最悪のものを見ようとしていた。

◇ 「明るい未来を見る」

病気になったことは、変えられない。→変えられない過去を考えない。→唯一変えられる未来に焦点を絞って考える。失敗したら、失敗した理由を考える。→悩んでもしょうがないと切り替える。

◇ 「できないことは、できる人にやってもらえばいいんだよ！」

今、自分ではできないことをスタッフにやってもらっている。でも僕ができる事は、スタッフの人にしている。それで良いと思っている

◇ 「前向きは技術です」

何が起っても明るく考えることができるのか?→起こってしまったことは変えられないが、考え方で、現実を変えられる(上手に解釈しよう)。

練習①苦手な人がいる・気が合わない

→その場合:良いところを見る。嫌いなやつに心を支配されない。

練習②うんこを踏んでしまった。

→この広い世の中でうんこを踏んでしまうというのは奇跡。自分でも気を付けているにも拘わらず、踏んでしまったとき、ラッキーだと考えられることが大切。「運がついている」楽しいこと探しが始まる。楽しいことを探そうとしたら、楽しいことが見えてくる。

◇ 「幸せは人と比べるものではない」

幸せは人が決めるものじゃなくて、自分の心が決めるもの。

→自分ができる事をやれば良い。自分の心が満たされていれば良い。

◇ 「夢」

寝たきりでも自分の指を使って、人に喜ばれるような仕事をしたい。

→いろんな事に興味を持ってくれる。

◇ 「時間には限りがある」

時間を大切に!

◇ 「自立とは相互依存関係が高い人のこと」

頼れる人が多い人の方が何でもできる。→支え合う仲間が多いほど、自立ができる。

自分にできること…必死に生きる

◇ 「人生は、自分の選択の繰り返し」

(選択したものを)人のせいには、できない。

今を、そして未来を変えたいなら、今までとは違う選択を!

◇ 「不機嫌は、罪」

不機嫌は、人が寄っていかない。周りの人の雰囲気悪くする。

笑顔には、笑顔が集まる。 → 笑顔の練習を！

◇ 「P：ピース L：ラブ S：スマイル」 (落水さんは、PLS という病気)

病気という人との違いを個性として、武器にしようと考えた。

僕と同じような境遇の人の希望になりたいと思った。

○ 保護者の感想 (受講アンケートより)

今日一番心に残ったことは、「前向きは技術」。

私はとてもネガティブで、ぐじぐじいつまでも悩んでしまう性格です。どうにか変えたいと思っ  
ても、なかなか…。

これから少しずつでも、一歩ずつでも考え方を前向きに切り替える練習を重ねて、“脱マイナス思考”  
になれるよう頑張りたいと思います。

今日は、本当にありがとうございました。

PLS という難病を発症した落水さんって人がどんな話をしてくれるのか…？少し重みのあるお話？涙  
ものかな？なんて思っていました。全く違っていました。人なつっこい言葉で、明るくユーモアをま  
じえての講話だったことに驚きました。

どんな状況でも幸せ (ラッキー) と思えるようになる。そんな「前向き」思考は技術であり、練習す  
れば良いだなんて、思ってもみませんでした。「マイナスで物事を考えがちですが、これからは少しず  
つ練習。練習すればするほど楽しくなる…」という言葉の思い出していきたいと思いました。

「落水さんだからこそ伝わる言葉。落水さんじゃないと伝わらない言葉」ってあると思います。ぜひ、  
子供たちにも落水さんご本人からのお話を聞かせてあげてほしいと思いました。私もまだまだ聞きたい  
です。本当にありがとうございました。

## 夏季大会で、たくさんの感動をもらいました。

### ◇ 野球部

7月1日浅川中学校で、区内大会 (トーナメント方式) 1回戦が、行われました。浅川中と対戦しまし  
たが、対戦相手の浅川中は、区内でも屈指の強豪で、初回4点、その後も3点を失い、0-7のスコアで敗退  
しました。上津役中の生徒達は、点差が開いても決して諦めることなく、打った内野ゴロに対して全力疾  
走で1塁ベースを目指しました。守備でもお互いに声を掛け合い、必死で頑張っている姿が印象的でした。

#### 【3番 末次君のレフト前クリーンヒット】



多くの保護者の方が応援してくれましたが、監督・選手・ベンチ・保護者が諦めない一体感の  
見られる試合でした。上津役中が4回裏の攻めが始まる時だったと思います。「おい〇〇、ま  
だまだだ！絶対に諦めるなよ！」というお父様の励ましの言葉が、忘れられません。

### ◇ サッカー部

7月8日に浅川中学校で、区内1回戦が行われました。千代中との対戦でしたが、前半一進一退の攻  
防で、0-0の同点で試合を折り返しました。後半は、お互いにシュートチャンスが増え、どちらが勝つ  
てもおかしくない接戦でしたが、試合時間残り5分で主将の山本君がサイドからドリブルでペナルティ  
エリアに進入し、シュートを放ちました。見事ゴールネットを揺らし、貴重な決勝点を入れました。

2回戦は、7月14日に浅川中学校で行われ、浅川中と対戦しました。前半は、一進一退の攻防を繰  
り返し、後半戦を迎えました。後半が始まって6分過ぎに本校のわずかな隙を突いて、浅川中がゴールを決め

ました。ディフェンスを背負ったままの振り向きざまのシュートで、敵ながら素晴らしいシュートでした。本校も絶好のチャンスはあったのですが、決めきれ【ゴールキーパー下平君の指示】【古賀君の必死のディフェンス】で0-1で惜敗しました。監督の近藤先生は、試合後に「1・2年生は、3年生の悔し涙をみておきなさい。今まで頑張ってきた証です。人は、頑張ってきた分想いが強くて、嬉しかったり、悲しかったり気持ちが揺れ動く。そこが素晴らしい所です。これからの学校生活に生かしていこう。」という事を言われていました。水田先生からも「今までで一番よく頑張った。素晴らしいゲームだった。」とお褒めの言葉を言っておられました。



◇ 剣道部

7月1日、的場池体育館で、男子・女子共に夏季区内大会(リーグ・トーナメント方式)が行われました。

男子は、本校と浅川中、千代中、香月中の4チームリーグで惜敗し、リーグ戦敗退となりました。最後の香月中との試合では、5人の対抗戦で勝ち数の多い方がチームの勝利となりますが、1勝2敗1分けで迎えた大将戦、最後の力を振り絞って片岡君が勝ちました。しかし、勝ち数が同じになった場合、勝ったときの本数が多い方がチームの勝利となります。同じ勝利でも本数の多い香月中の勝利となりました。惜敗でしたが、最後まで諦めずに本当によく頑張りました。

【大将 片岡君(左)の鋭い面打ち】



女子は、本校と折尾愛真中、黒崎中の3チームリーグ1勝1敗(折尾愛真中に惜敗)で、決勝トーナメントに進みました。トーナメント1回戦は対木屋瀬中で、2勝2敗1分けの本数勝ち、準決勝は対引野中で2勝1敗2分けで勝利しました。決勝は対熊西中で代表決定戦を制し、見事優勝を果たしました。決勝トーナメントでは、大変な集中力と団結力を発揮して素晴らしい試合を見せて観客を魅了しました。また、女子主将末次さんの【写真右】開会式での選手宣誓は、見事だったと好評でした。宣誓通り、最後まで諦めない戦いに感動しました。



【原田君(右)の力強いつばぜり合い】 →

【女子 区内優勝、おめでとう!】

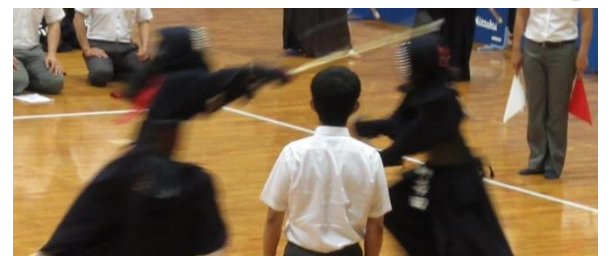


16日には北九州市立総合体育館で、市内大会が行われました。予選リーグは、湯川中と霧丘中と対戦し、3勝2分けの圧勝でした。県大会出場は3位までですので、決勝トーナメント1回戦で敗退すれば、そこで全ては終わり、という状況で石峯中と戦いました。3勝1敗1分けで見事勝利し、ベスト4へ進みました。そして準決勝では菅生中と対戦し、接戦を演じました。先鋒から副将までの4人の戦いで2勝2敗の5分、大将戦末次さんの勝負で決着することになりました。大将戦でも延長戦となり大接戦となりま



← 【橋田さんの  
競り合い場面  
での良い姿勢】

【河野(左)さんの  
↓見事な面打ち】



したが、最後は末次さんの面が決まり、勝利しました。会場に拍手と歓声が上がったくらい見事な一本でした。決勝戦は、守恒中との対戦でしたが力及ばず敗戦しました。選手たちはもう後がないかのように泣いて悔しがっていましたが、この大会では、勝ちを喜び、負けを悔しがり大きく感情が揺れ動きました。この必死になって闘った経験が、また一つ彼女たちを成長させてくれました。7月30日久留米市の三瀧総合体育館で、県大会が行われます。1つ上のステージでまた一つ成長してくれることを期待しています。

【加来さんの見事な2本勝ち】



#### ◇ ソフトテニス部

7月7日に穴生ドームで、区内大会（リーグ・トーナメント）が行われました。リーグ戦は3チームリーグで、初戦永犬丸中、2試合目浅川中と対戦しました。両チーム共に強豪（区内優勝：永犬丸中、準優勝：浅川中）で、敗退しました。リーグ3位で決勝トーナメントに進みましたが、1回戦則松中と戦い惜敗しました。生徒達は、今まで努力してきた力を発揮して精一杯頑張ったと思います。学校通信の先月号にも掲載しましたが、3年生が約1年半テニスコートで練習できなかったことを考えれば、無理もないことだと思います。

【鋭いフォアハンドドライブ】



【金田君↑】

【強烈なサービス】



【大柿君↑】 【能間君↑】

1・2年生と保護者の熱い応援の裏側には、3年生の日頃からのまじめな取り組みを観ていたからではないかと思えます。

#### ◇ バスケット部

【野中君のドリブル】 【末次君のディフェンス】



7月1日、自由が丘高校で、男女共に区内大会1回戦（トーナメント方式）が行われました。

男子は、八児中と対戦しましたが、第2クォーターまで20-22と接戦を演じました。しかし、地力に勝る八児中が徐々に点差を広げはじめ、本校のミスが少しずつ目立ってくるようになりました。それでも本校の選手は、何とか追いつき追い越そうと必死になってプレーしましたが、点差は埋まらず39-52で敗退しました。負けはしましたが、選手はもちろん、ベンチに座っている1・2年生の部員まで必死に応援している姿に、チームの団結力を感じました。



←左の写真から

【竹森君のディフェンス】

【石田君のステップ】

【森君のフリースロー】

《全て、集中した顔つき》

女子は、則松中と対戦しましたが、78-31のスコアで圧勝しました。則松中にとっても最後の夏の大会で必死にプレーするので、前半は接戦となりました。しかし、日頃の練習の成果が出て、徐々に相手を圧倒していきました。2回戦は、7月8日に 的場池体育館で、市内大会をかけて沖田中と戦い

ました。最初に8点を取られて、苦しい展開となりましたが、後半徐々に盛り返しました。第4クォーターの最後には、3点差まで追いましたが、時間切れで惜敗しました。私は、三船先生、小笠原先生、大塚コーチ、部員、保護者が、チーム一丸となって頑張っている姿を見てきました。それだけに、この日の悔しさも心に伝わってきました。この悔しさは、決して無駄ではありません。頑張った証として、しっかり胸を張って今後の人生に生かしてもらいたいと思っています。 【宮地さんのデフェンス】

【上野さん・林さんのシュート】 【鶴我さんのドリブル】 【君原さんから4クォーター開始】



#### ◇ バレー部

7月14日と15日に、区内大会が行われました。男子は、1日目上津役中学校で、3チームの予選リーグが行われました。1試合目は香月中と2-0の勝利、2試合目は則松中と0-2の惜敗で、1勝1敗。予選リーグ2位で2日目の決勝トーナメント準決勝に進出しました。準決勝の相手は、優勝した千代中学校で、力及ばず3位決定戦に臨みました。永犬丸中との対戦では、25-16、25-23で2セット連取し、ストレート勝ちしました。見事3位の栄冠をつかみ、市内大会出場が決定しました。3年生は、5名中、小学校でバレーを経験しているのが上野君だけで、他校と比べても技術的な部分で厳しい面もありますが、特に3年生になって5月頃から急激に伸びてきて、市内大会でも十分戦える実力を付けてきたように思います。7月23日・24日に、北九州市立総合体育館で市内大会が行われます。しっかり、応援しましょう。

女子も、男子と同じ日にちで大会が行われました。予選リーグは、香月中・千代中と本校の3チームで戦い、1勝1敗でリーグ2位で決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントは木屋瀬中と対戦し、フルセットの末、見事勝利しました。しかし2セット目は、24-21のマッチポイントを迎えた時に、本校のサーブ順のミスが分かって、20-22に戻されたときには会場が静まりかえり、またすぐにどよめきました。応援する者も審判に文句を言いたくなるほどの進行でしたが、本校の選手たちは全く動じず、冷静かつ闘志をもって試合に臨みました。結果、2セット目は26-24で逆転勝利しました。後で木下先生に聞くと、「何点か負けている時を想定して練習を積んでいた。19-22から逆転するための集中した練習を何度もシュミレーションしていた。」というのです。全ては、集中した練習の、努力の賜だと感動した瞬間でした。そして、準決勝は強豪永犬丸中、木屋瀬中の時の波に乗った状態のまま、2-1で勝利しました。必死にレシーブする姿を見て、「今勝つために必死になってプレーするこの時こそ見る見る上手くなっている。」と感じました。準優勝、おめでとうございます。女子バレー部も男子と同様、23日・24日に、北九州市立総合体育館で市内大会が行われます。さらなる成長を期待しています。

◇ 水泳 7月15日、市内大会で3年生の「山之内智也」君が、「100m背泳ぎ」2位(記録105”77)、「200m背泳ぎ」3位(記録2’20”06)となりました。おめでとうございます。県大会も頑張ってください。

◇ 器械体操 7月15日、市内大会で1年生の「柴田彪雅」君が跳馬で3位、同1年生の「清水麦珀」君が鉄棒で3位に入りました。おめでとうございます。県大会での活躍も期待しています。

残念ながら、敗退した部の3年生は終わりになりますが、昨年の夏の大会が終わってから頑張った1年間、そして中学に入学してからの3年間、本当によく頑張りました。日々の練習や土日の練習試合など本気で頑張ってきた皆さんに敬意を表します。今まで頑張ってきた努力は、必ず皆さんの次のステージに生かされます。頑張ってください。応援しています。